

# 令和2年度第1回湧別町総合教育会議議案

日 時 令和3年1月22日（金）

午後4時00分

場 所 湧別町文化センターさざ波

1階中会議室

湧別町総合教育会議

## 会 議 次 第

1 開 会

2 町長あいさつ

3 教育長あいさつ

4 協 議

(1) 協議第1号 湧別町いじめ防止等の取り組みについて

(2) 協議第2号 学力向上対策の取り組みについて

(3) 協議第3号 小中一貫教育について

(4) その他

5 閉 会

協議第1号

湧別町いじめ防止等の取り組みについて

湧別町いじめ防止等の取り組みについて、次のように協議するものとする。

記

別紙のとおり

令和3年1月22日提出

湧別町長 石田 昭 廣

協議第2号

学力向上対策の取り組みについて

学力向上対策の取り組みについて、次のように協議するものとする。

記

別紙のとおり

令和3年1月22日提出

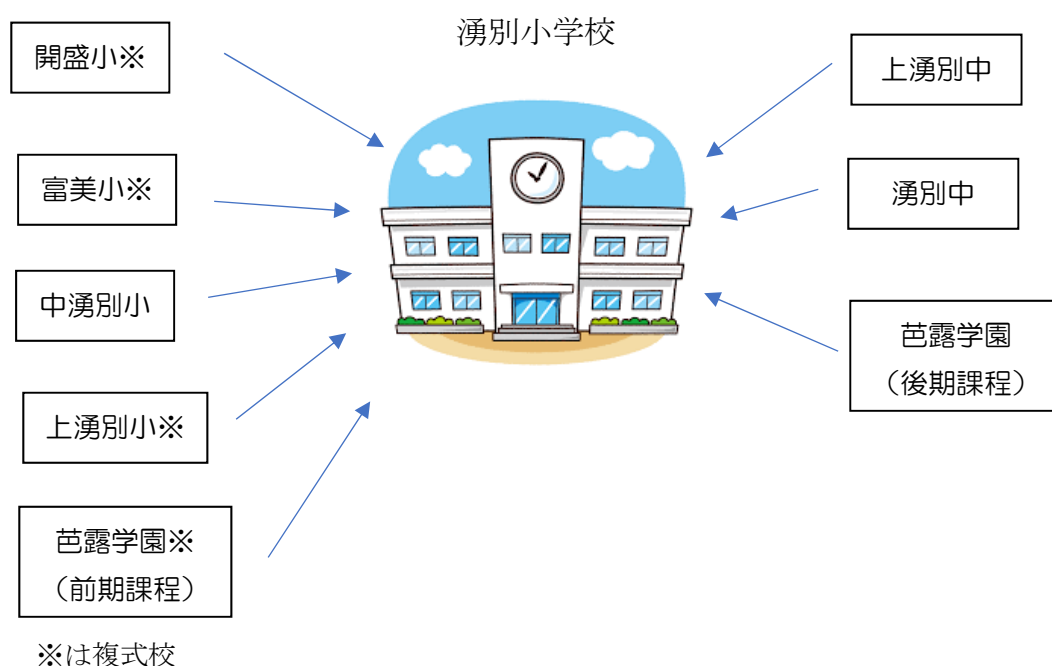
湧別町長 石田 昭 廣

# 学力向上対策の取組について

## 湧別町型学校力向上事業

### 1 湧別町型学校力向上事業について


湧別町型学校力向上事業とは、令和2年度から令和4年度までの3年間において、湧別小学校を中心として町内すべての教員の指導力向上を図るため、湧別小での公開授業を実施し、校内研修に参加することにおいて湧別町内全体の学力向上を図ることを目的としています。



### 2 実施計画について

#### 令和2年度の計画

| 月  | 具体的な取り組み                                 | 備考             |
|----|--|----------------|
| 4  |  |                |
| 5  |  |                |
| 6  | 学校経営訪問による指導・助言                           |                |
| 7  | ・授業改善・校内研修改善について周知<br>・全国学力・学習状況調査の実施・分析 | ・校長会議、教頭会議において |
| 8  | ・8/28 (金) 5年社会                           | ・湧別小における公開     |
| 9  | ・9/14 の週 4年道徳、社会<br>・9/29 (火) 5年国語       | ・湧別小における公開     |
| 10 | ↓ 学校教育指導による指導・助言                         |                |
| 11 |  |                |

|     |   |                          |
|-----|---|--------------------------|
| 1 2 | ・12/11（金）6年国語<br>※大妻女子大学 准教授 樺山 敏郎氏を招聘した町内<br>研修の実施                               | ・湧別小において実施<br>各校より1～2名参加 |
| 1   | 令和2年度 of 取組についての検証  |                          |
| 2   | 令和3年度全国学力・学習状況調査に向けた取組  |                          |
| 3   |  |                          |

### 3 町内統一した取り組みについて

#### (1) 授業改善のポイント

- ・子どもたちが「どのように学ぶのか」という学びの過程を大切にする授業
- ・身に付けさせたい力を明確にした単元づくり
- ・子どもたちのアウトプットがある授業
- ・小中学校の9年間において、子どもたちの発達段階に応じた学びが連続した授業

#### (2) 「主体的・対話的で深い学び」を目指した校内研修のポイント

- ・これまでのような先生の指導技術（発問、板書など）に着目した研修から、子どもたちを学びの過程を見取る研修へ
- ・子どもたちに着目した研修

### 4 具体的な取り組み状況

令和5年度4月に開校予定である湧別地区義務教育学校の母体校湧別小、湧別中学校において6～8月にかけて先生方の相互の授業参観を行った。小中学校9年間の学びの連続性を考慮した授業改善を検討しているところです。今後、芭露学園の実践、湧別小・湧別中学校の取組などを検証し、町内の小中学校へさらに具体的な取り組み内容を周知していく予定です。

### 5 成果

今年度、実施が中止となった令和2年度全国学力・学習状況調査を9月に町内すべての学校で実施した。新型コロナウイルスのため4月中旬より5月まで臨時休校であったが、6月より「授業改善」「校内研修の改善」を行った成果により、町内の小学校においては国語の正答率70%程度、算数の正答率が75%程度であった。また、中学校においては、国語の正答率が75%程度、数学の正答率が60%程度であった。全国、全道の正答率との比較は今年度できないが、数値を参考にすると小中学校ともに成果をあげることができた。

## 6 北海道大学大学院教育学院との連携について

令和2年の1月に湧別町と北海道大学大学院教育学院において連携協定が締結されました。この連携協定を有効に活用し、学力向上と学校全体の組織力の強化を図ろうと考えている。

### ○湧別町・教育委員会・学校とのかかわり

- (1) 論文作成・研究のための学生の受け入れ
- (2) 教育実習の受け入れ
- (3) 地域滞在型研究の受け入れ
- (4) 研究対象としての大学の先生方の受け入れ

### ○北大とのかかわり

- (1) 授業への指導・助言
- (2) 教育課程への指導・助言
- (3) 学校経営への指導・助言
- (4) 組織に対する指導・助言

協議第3号

小中一貫教育について

小中一貫教育について、次のように協議するものとする。

記

別紙のとおり

令和3年1月22日提出

湧別町長 石田 昭 廣



## 小中一貫教育について

### 1. 湧別町の小中一貫教育、小中連携教育について

湧別町（以下本町）においては、小学校5校、中学校2校、義務教育学校1校の計8校の学校がある。そのうちの1校、芭露学園が義務教育学校であり小中一貫教育を行っている。その他の学校は、中学校を主体として連携教育を進めている。

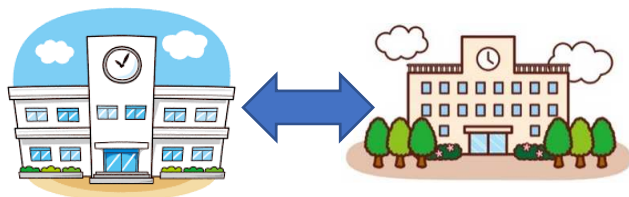
平成30年4月にオホーツク管内2校目となる義務教育学校、芭露学園が開校した。1年生から9年生までが同じ校舎の中で学習し生活を送ります。義務教育学校として中一ギャップ、教科担任制を生かした学力向上が期待されていました。また、平成30年度より町内の学校においても小中連携のより一層の強化を教育活動の重点として掲げ取り組んできました。

**芭露学園（義務教育学校）施設一体型**



- 芭露地区（芭露学園）※義務教育学校
- ※平成30年度4月開校
- ・教科担任制（図工、音楽、外国語、体育、社会）
- ・学校運営協議会（コミュニティ・スクール）
- ・9年間を見通した教育課程の編成
- ・6・3制

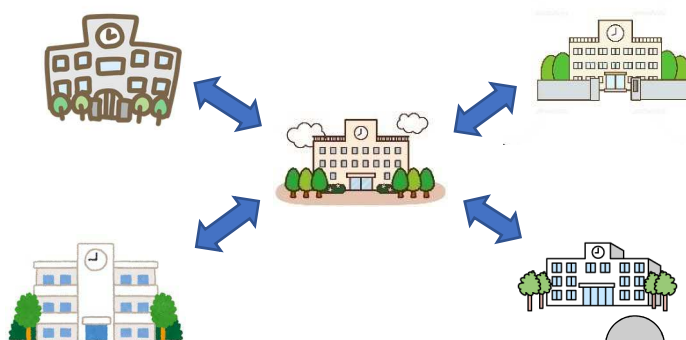
**湧別小学校・湧別中学校（小中連携）**



- 湧別地区（湧別小・湧別中）
- ※令和5年度義務教育学校へ
- ・乗り入れ授業（外国語・音楽・体育）
- ・湧別小・湧別中合同研修
- ・湧別小・湧別中学校運営協議会（コミュニティ・スクール）

**開盛小・上湧別小・中湧別小・富美小・上湧別中**

**（小中連携）**



- 上湧別地区（中湧別小・上湧別小・富美小・開盛小・上湧別中）
- ※今後、義務教育学校へ（時期未定）
- ・乗り入れ授業
- ・一日体験入学（上湧別中）
- ・5校それぞれの学校運営協議会（コミュニティ・スクール）



小学校高学年 体育の授業（教科担任制）

本町を地域ごとに大きく3つに分けて連携を行っている。小学校と中学校が連携し目指す子ども像を共有し、9年間でどのような子どもに育てていくかを学校・保護者・地域が一体となってすすめています。特に地域との連携については、本町のすべての学校がコミュニティ・スクールとして、地域の協力を得ながら、地域の産業、自然、人材を活用し湧別らしい教育を実践している。

## 2. 義務教育学校の成果・課題

芭露学園（義務教育学校）が2年間の教育活動において成果と課題をまとめました。特に中一ギャップの解消には大きな成果をあげています。また、9年間の連続したカリキュラムによる指導は、学力向上だけではなく、教職員の組織の一体化にもつながっている。

今後の課題については、多くの義務教育学校において課題としてあげられている6年生のリーダー性の発揮の場が少ないことがあげられる。学校行事などでも今後活躍の場を考えていくことが必要である。

### 課題

- 1 6年生のリーダー性の発揮の場がない
- 2 1～9年生の学校行事の内容
- 3 教職員の意識

令和5年4月に開校予定である湧別地区の義務教育学校は児童生徒数200名規模の大きな義務教育学校となる。令和3年度より地域・保護者を含めた開設準備委員会を設置し子どもたちを中心に据え、地域、保護者、学校とともに芭露学園の成果・課題を踏まえて9年間の教育課程を編成していく予定である。



小学校高学年 音楽の授業（教科担任制）

### 成果

- 1 **中一の壁・小中ギャップの解消、継続的な指導体制**
  - 1) オール芭露学園の指導体制
  - 2) 9年間を通じた見守り体制
- 2 **9年間の連続性を生かした小中一貫教育**
  - 1) 専科指導による学力向上
  - 2) 9年間を通じた外国語の一貫教育
  - 3) 学習のつまづきを速やかに解消
- 3 **広い年齢間交流による情操教育**
  - 1) 下級生へのいたわり
  - 2) 上級生への憧れ
- 4 **教職員組織の一体化によるメリット**
  - 1) 教職員の相互理解
  - 2) 組織一丸となった学校行事対応
  - 3) 前期課程、後期課程の教師の指導力向上
  - 4) 働き方改革への対応

## 3. 主体的な学びの追求

これからの社会をよりよく生き抜くため、さまざまな課題に柔軟に対応し、個人または集団により協働で課題を解決し能力を育成する必要がある。そのために日常の授業において「基礎基本の定着」「知識・技能」をもとに「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の育成につなげていくため、各教科の授業において「課題解決」「学び合い」「発表」を積極的に取り入れ、応用力・対応力の育成することを目指している。このことについて、本町すべての学校が共通に取り組むべき事項として、校長会議、学校訪問等で周知を行い、授業改善に取り組んでいる。このほかに、「1単位時間の基本デザイン」「主体的・対話的で深い学びを目指した校内研修」などすべての学校で取り組めるよう資料を作

成し、授業、研修における小中学校の接続がスムーズになるように工夫・改善を行っている。

#### 授業改善

##### ○子どもたちが主体となる授業

各教科の授業により、先生が単に知識や技能を教え込むのではなく、子どもたちが主体となって課題設定、課題解決を学び合いを通して行っている授業になるように工夫する。

##### ○ICT を活用した授業

プロジェクター、実物投影機、タブレット等を積極的に授業に取り入れ、視覚的に教材等を提示し理解を促進し、興味・関心を高める授業を展開する。

#### 学力の把握

##### ○学力検査の実施

教研式学力検査等を利用し、各学年の発達段階に応じたデータを収集し、9年間を見通し、一人ひとりの子どもの得意教科、苦手教科等を把握に努める。

##### ○全国学力・学習状況調査の活用

小学校6年生、中学校3年生(9年生)において実施される全国学力・学習状況調査をもとに全道、全国的な学力を把握し、高等学校・大学・将来へのつながる学習について支援する。

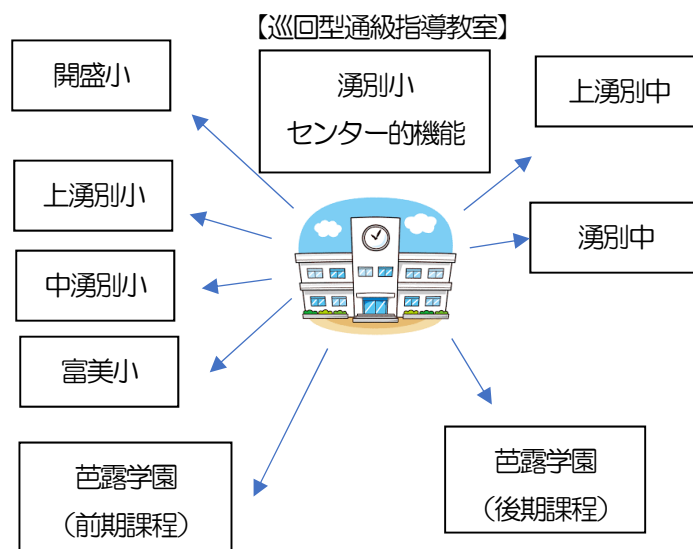


1年生から9年生までの全校合唱

#### 4. 通級指導教室 (小学校から中学校へ) ※1

特別支援教育の本町の政策の一つとして通級指導教室があげられる。湧別小学校を中心として小学校だけではなく中学校(後期課程)においても通級指導教室が設置できる独自の工夫を行っている。

北海道教育委員会の通級指導教室の加配の配置基準として対象児童生徒が概ね13名以上の学校に1名の配置となっています。本町のすべての学校に通級指導教室を設置するためには複式校が多いため配置は難しいことから令和2年度より増員し湧別小学校へ3名の通級指導教室担当者を配置し、町内の小中学校を巡回することですべての学校に通級指導教室を設置できるようにした。また、湧別小学校に町内の特別支援のセンター的機能を担わせ、各学校で指導が難しい児童生徒の相談、各種検査の実施など多角的な視点から支援できる体制を持たせている。各学校の特別支援教育コーディネーターと連携して、支援を必要とする児童生徒の学びを保証できるように取り組んでいる。



※1 通級指導教室とは、友達関係に苦手意識があり、学習に集中できないなどの苦手意識のある子どもたちに週1~8時間程度個別または少人数で学習する教室のことです。

